

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁62-1
四国医療専門学校 作業療法学会内
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

祖母と孫と作業療法士

総合病院回生病院 石井 誠二

そこにはいつもの明るい笑顔があった。いつもと変わらない祖母特有の空気があった。ただ一つ違うところは、隣で座る私が祖母の知らない病名を知っていることだった。

「胆管原発末期肝臓癌」

これが祖母の診断名である。本人には未告知のまま家族に宣告された余命は2ヶ月。私は耳を疑った。あれほど元気で気丈に一人暮らしをしていた祖母に突然つけられた診断名。家族一同、病気とは全くもって縁がないものだと思い込んでいた。それからほどなくして祖母は私が働く病院に入院し、発熱や頭痛、倦怠感などへの対症療法が始まった。もう手の施しようのないほど末期の状態。本人にはまだ告知をしていない状態で人生の終末 (end of life) にどのように関わっていくのか家族も不安に思っていた。

そんなある日、がんのリハビリテーションが処方された。同じ職場の後輩作業療法士が提示してくれた作業活動は塗り絵。元々社交性は高いが、生来の面倒くさがり屋な祖母がどんな反応をするのか遠巻きで心配しながら様子を見ていると、そこには初孫の私が初めて目にする祖母の姿があった。その時、祖母は輝いていた。本当にいきいきと輝いていた。私は、目の前のことにあれほど真剣に取り組む祖母の姿を見たことがなかった。その後も後輩の作業療法士は様々な活動を提供してくれた。ビーズ細工や書字練習など、その日の体調や病状に合わせて献身的に祖母に活動の機会を作ってくれた。

「ひとは作業をすることで元気になれる」

日本作業療法士協会誌でよく目にするフレーズをふっと思い出した瞬間であった。そこには作業療法しか持ちえない無形の効果があった。定量的には評価できないが、人生を満たす何かがそこにあった。手外科のリハビリテーションを専門とし、関節可動域や筋力といった機能的側面に精通しながら治療技術を磨いてきたつもりではあるが、改めて祖母と後輩作業療法士に教えられた。ハンドセラピーを生業にする私にとって、対象とする患者さんは違えども、その方それぞれの人生を満たす「何か」を探しながら、これからも目の前の患者さんと二人三脚で歩んでゆきたいと思う。祖母の姿や思い出を胸に。

五味陽子先生が 厚生労働大臣賞を受賞されました

この度、五味陽子先生が厚生労働大臣賞を受賞されました。

誠におめでとうございます。

授賞式は、平成 28 年 9 月 25 日の日本作業療法士協会設立 50 周年記念式典の中で行われました。

そこで、このおめでたい受賞を祝して五味先生にインタビューさせていただき、お喜びの言葉とメッセージを頂きましたのでご紹介します。

質問 1 厚生労働大臣表彰受賞の感想をお聞かせください。

この度、このように栄えある賞を頂きうれしく思っています。と共にこれまで支えていただいた皆様方に感謝いたします。

昭和 54 年国立善通寺病院附属リハビリテーション学院の設立に伴い先輩より声をかけて頂きました。当時ひかり整肢学園現在のかがわ県身体障害者総合リハビリテーションを含めた少数の施設・病院に作業療法士が働いている状況でした。不安の中教務につくこととなり、その後香川県作業療法士会の発足や発展にも関わりをもつこととなりました。諸先生方に後押しされ、助言・支援をいただきながらここまで来ることができました。

本当にありがとうございました。

質問 2 OT をされてきて心に残るエピソードを教えてください。

作業療法士の働く場所の開拓も仕事のうちでした。様々な病院や施設との関わりの中で作業療法士を送ってきました。拘束もやむ負えない状況の中で、寝たきりの高齢の女性がいました。起きる・歩くなど行いながらその方の関心を伺ったものでした。その方と久しぶりに会った時、老人車を使用して主体的に移動していました。「あなたがいたから」と多大なるお褒めの言葉を頂きました。この言葉が私の原動力につながった 1 つと言えます。

頸髄損傷の方の食事訓練・生活支援など様々な方々との関わりをもちました。意欲を引き出すことができずに私自身の失敗体験につながった経験もあります。一つ一つの体験がエピソードであり、その積み重ねが現在の私の変化でもあります。現在、認知症病棟での関わりを行っています。以前四国作業療法学会に発表した方も生活の中で環境調整が重要となっていますが、現在も料理を作ってください参加者で美味しくいただいています。記憶は徐々に低下していますがご本人より挨拶していただけます。信頼関係です。私も助けられているのです。

質問3**OTとして大切にしていることあるいは大切にしないといけないことは何でしょうか？**

常に笑顔で、一人一人の話を聞いて、責任をもって答える。

話の意味や生活に関わりながら一人一人の人生を鑑みる。

それには私自身が心も体も元気でなければいけない。元気でなければ笑顔も話を聞くこともできないと思います。一人一人の想いを適えるべく努力をしたいと思います。

質問4**ストレス解消法を教えてください。**

患者様と一緒に汗を流したり、お腹から笑える時間があることもホットな時間です。以前は手芸店に行きこれは作業に使える、ご馳走を食べて料理方法は？と味の確認や料理方法を聞き失敗しながらも挑戦するなど何度も作っていました。台所に立つことは考えてみるとストレスの解消になっているのかもしれませんが。酒のつまみが主だと思います。人生折返しています出来る限り色々なことを経験してみたいと思います。

質問5**最後に、後輩 OT へメッセージをお願いします。**

今回、20 数年前の手帳から今までの業績を振り返ることをしてみますと、香川県作業療法士会発足当時、会員数も少なく会員全員が役員という状況で、しかしながら、皆が相談し、団結して解決策をもっていくという状況でした。会長就任の折も、諸先輩方に援助を受けながら目の前のことを一生懸命にこなしてきた状況であったように思います。振り返ってみますと諸先生方のご支援・ご助言が誠にありがたく思い感謝の気持ちでいっぱいになりました。改めてお礼を申し述べたいと思います。現在は教科書の充実や設備も整い様々な知識が得ようと思えばすぐに得られる状況だと思います。しかしながら対象の方々は十人十色の生活史をお持ちです。常に様々な情報を入手できる状況を作ることや、自分の行っていることを確認できる状況にすることが大切なのではないでしょうか。「井の中の蛙大海を知らず」にならぬよう、更に一人一人の力をつけ作業療法の発展に寄与していただきたいと思います。



五味先生ありがとうございました。先生の益々のご活躍とご多幸を祈念するとともに私たち後輩 OT は先生に追いつけ、追い越せの精神で頑張っておりますのでこれからもご指導ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

先輩の声

No.23 香川県済生会病院

山地奈津美

(8年目)



ある先輩の言葉です。

「患者さんの命、人生に携わっているから、それだけ勉強して、その手助けをしなきゃいけない。“なんちゃってOT”にはなるな」。

私が学生時代、専門書と睨めっこし、何故こんなに難しいことを覚えるのか…と勉強の意味すら分からないまま試験に臨んでいました。患者さんの機能や生活を良くしたいと思うことはとても大切です。でもそれも知識があってこそできることであると、この言葉を聞いて改めて考えさせられました。

現在8年目となり、これまでの知識が患者さんのためになっているの??と問われれば、まだまだ未熟な知識であると思います。もっと良くできたのに…と悔やまれる経験もしてきました。患者さんの状態は多様であり、そういった経験もまた、知識の1つであると思います。“なんちゃってOT”にはならないように、作業療法士として患者様と接していくためには、常に知識を追求し、作業療法を実践していきたいと思います。また、それは自分のためだけでなく、患者さんのためであることを後輩の皆さんにも伝えていきたいです。



No.11 病院紹介



屋島総合病院

当院は、2016年11月1日より新病院へ移転し、11月7日より本格稼働をしています。

新病院では、回復期リハビリテーション病棟の開設と心大血管疾患リハビリテーションの提供を開始しました。

現在のリハビリスタッフは、PT9名、OT5名、ST1名、受付1名であり、来年度よりST1名の増員があります。

OTでは主に、超急性期の脳血管疾患、運動器疾患、廃用症候群を対象に、患者様の個々に応じた機能訓練、ADL訓練、家事動作訓練などを実施しております。新病院では、新たなADL室とリハビリ庭園が整備され、安心して家庭復帰をして頂くための環境整備がされました。また、退院後の不安感に対する精神的サポートも引き続き行っていきます。

今まで以上に、迅速な対応ができるように、他職種と協働し、的確な支援をしていく予定です。今後も患者様に寄り添えるよう、地域医療に密接した最適な医療の提供に努めていきたいと考えています。



「四国四県同時啓発イベント開催報告」

滝宮総合病院 高橋 優里

平成 28 年 9 月 4 日にゆめタウン高松にて広報部が中心となり、啓発活動イベントを行いました。昨年に引き続きゆめタウン高松にて開催し、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々に参加や体験をしていただくことができました。内容としては、OT 説明コーナー、自助具説明・体験コーナー、脳年齢テスト、握力測定コーナー、アイロンビーズ作業体験、OT 協会 DVD 閲覧コーナーなど様々な内容を企画しました。その中でも特に、脳年齢テストや握力測定は大人の方に好評で、アイロンビーズ作業体験は子ども達に人気があり、笑顔で体験してくれていたのが嬉しかったです。また、自助具説明・体験コーナーでは、それぞれの自助具にどのような場合に使用するかを書いた説明文をつけることで、立ち止まって実際に手に取っていただける方も多かったように感じました。普段の生活の中ではなかなか自助具に触れる機会がない方にも知ってもらえたのではないかと思います。

今回の啓発イベントは、今まで作業療法を知らなかった方に少しでも知ってもらえる良い機会になったと思います。今後もこのようなイベント等を通して、作業療法をもっと多くの方々に知っていただきたいです。



多職種の方へ向けた 「福祉用具研修会」の取り組みについて

香川県作業療法士 樋本 英司

平成 27 年度に引き続き、28 年度も (一社) 香川県作業療法士会では、香川県介護人材確保事業の補助金交付を受けることができましたので「福祉用具研修会」の取り組みについて報告いたします。

医療福祉従事者向けに「生活を支えるための福祉用具研修会」と題し、今年度は研修会を 8 回予定しています。前半のテーマは(田)車椅子の調整の仕方(用)自助具の作成を、東讃・西讃に分け 4 回の講座を無事終了いたしました。福祉用具を利用した介助方法、生活上の工夫などを提案し、講義だけでなく実際に実技を多く体験いただきました。参加者からは福祉用具を上手に使用することで「利用者さまの自立支援」や「家族さまの介護負担軽減」、「自分自身の身体負担軽減」に繋がり現場で実践したい。また実技が多くあり、楽しみながら学びましたと嬉しい言葉を沢山いただきました。私達、作業療法士は対象者の方への治療や生活を支援するために、実際の医療・介護の現場で、一段と多職種の方との連携を積極的におこなっていかねばならないと強く感じました。

後半のテーマは①移動用補助具 (12 月 4 日、12 月 11 日)②認知症の方に対する福祉用具・支援方法 (平成 29 年 1 月 15 日)③ベッド周辺機器 (平成 29 年 2 月 5 日) を予定しております。所属施設には案内文を郵送いたしますのでご確認ください。また詳しい内容は香川県作業療法士会 HP にも掲載しておりますのご覧になってください。是非、皆さんが所属している施設の多職種の方にもご案内いただければ幸いです。今後とも県士会活動にご協力の程宜しくお願いいたします。



新入・転入会員紹介



今年度も多くの方が県士会に入会されました。これからよろしくお願ひします。(順不同・敬称略)

①氏名 ②生年月日 ③出身地 ④出身校 ⑤勤務先 ⑥趣味・特技 ⑦職歴 ⑧自己アピール ⑨抱負



①岩本早織 ②平成5年7月1日 ③香川県 ④県立広島大学 ⑤四国こどもとおとなの医療センター ⑥バドミントン ⑧優しく穏やかに、患者様に安心を与えられるような関わりに努めます ⑨子どもからお年寄りまで、多くの患者様の支えとなれるよう頑張ります。



①金崎彩香 ②平成5年12月2日 ③香川県 ④川崎医療福祉大学 ⑤滝宮総合病院 ⑥旅行、ショッピング ⑧いつも元気いっぱいです!!! ⑨信頼関係を築けるOTになれるように頑張ります。



①元木詩夕 ②平成6年6月14日 ③香川県 ④専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ ⑤おさか脳神経外科病院 ⑧実は負けず嫌いなところ ⑨OT1年目でまだまだ分からないことだらけですが、色々勉強して患者さんを笑顔にできるOT目指してがんばります!



①小林浩実 ②昭和62年5月24日 ③香川県 ④リハビリテーションカレッジ島根 ⑤医療法人社団三和会しおかぜ病院 ⑥旅行・写真(カナラ) ⑦医療法人せのがわ瀬野川病院(広島県) ⑨いろんな事に挑戦していきたいです。頑張ります!!



①宮武理子 ②平成4年11月3日 ③香川県観音寺市 ④三豊中学校、観音寺第一高校、広島国際大学 ⑤かがわ総合リハビリテーションセンター ⑥本を読むこと。身体を動かすこと。 ⑧観音寺から、高松の通勤もへっちゃら!でしたが、最近、高松に引っ越してきました(笑)。 ⑨1年目から小児分野のOTとして働いている恵まれた環境に感謝しながら、これからも子どもたちと一緒に成長していきたいです。

	<p>①上枝亮介 ②平成2年7月27日 ③香川県高松市 ④山田中学校、英明高校、大阪保健医療大学 ⑤かがわ総合リハビリテーションセンター ⑥バス釣り、城めぐり ⑧常に健康なのが取り柄です(笑) ⑨患者様に楽しみや、生きがいを感じて頂けるよう、新たな生活への支援・サポートを行っていただければと思います。</p>
	<p>①藤井麻莉 ②平成6年6月2日 ③香川県木田郡三木町 ④三木高校、専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ ⑤かがわ総合リハビリテーションセンター ⑥ねこカフェに行くこと ⑧笑い上戸なのでリハビリ中もよく笑っています。 ⑨たくさん のことを経験し、患者様のことを一番に考えたりリハビリが提供できるような作業療法士になりたいです。よろしくお願いします。</p>
	<p>①井上はるな ②平成5年6月11日 ③香川県木田郡三木町 ④三木中学校、三木高校、川崎医療福祉大学 ⑤かがわ総合リハビリテーションセンター ⑥バレーボール、テレビを見ながらゴロゴロすること。 ⑧うそをつくとすぐバレます。 ⑨いろ んなことを吸収して、自分らしく患者様と関わっていくことができる作業療法士になりたいと思います。よろしくお願いします。</p>



連載企画4 第一弾

「地域包括ケアシステム 構築における作業療法士の役割」

第1話

株式会社 創心會

執行役員 若林 佳樹

この度、県士会ニュースのご依頼を頂き、ありがとうございます。3回の連載を通じて、地域包括ケアシステム構築における作業療法士の役割について話をさせていただきます。

地域包括ケアシステムとは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるケアシステムのことです。人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。厚生労働省は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて地域包括ケアシステムを作り上げていくことの必要性を提言しています。

皆さんはご自身の生活居住地域における高齢者のニーズや住民・地域の課題、社会資源の課題、支援者の課題などについてご存知でしょうか？地域の特性に応じて、作業療法士の活躍の場も変わってきます。

たとえば新興住宅地では子育て世代が多く、祖父母と離れて暮らす家庭の割合も高いといえます。このような地域においては、学校教育機関等と連携した特別支援教育への貢献や孤立しがちな保護者への支援が可能でしょう。

また高齢者が多い地域では、介護保険の基本理念である自立支援が非常に重要になります。直接高齢者に対し支援することも出来ますし、高齢者を支援するボランティアの方への指導なども出来ます。

このように作業療法士の皆さん一人一人が地域の特性を知り、必要とされる支援のあり方を捉えることが地域包括ケアシステムを構築するための第一歩といえるでしょう。そして作業療法士間での情報共有を密にし、様々な職種の方々と連携することで、私たちが住む地域を良くしていきましょう。

地域包括ケアシステムを構築するためには、手法として「地域ケア会議」が推進されています。第2回目では地域ケア会議についてご紹介させて頂きたいと思います。

第1回 ソーシャルフットボール 四国チャンピオンズリーグ AUTUMN STAGE

フットサルチーム『まんでガンバ!讃岐』がくれた絆

三光病院 デイケア 松下 瑞季 (PSW)

香川県内における、精神障がい者を対象としたスポーツ大会はこれまでソフトバレーボール大会を中心とされてきました。私は三光病院デイケアのレクリエーション関係担当者として、ソフトバレーボール大会実行委員会に参加する中で、いわき病院北村氏の「香川県にも精神障がい者のフットサルチームを作りたい!」というお話しを受け、昨年末、いわき病院・五色台病院との合同フットサル参加のため動き出しました。当院デイケアでも一時期フットサルをプログラムに設けていたのですが、当時のフットサル参加者の、デイケア利用率の低下や高齢化により、フットサルは下火となっていました。そこに、「他の病院と合同でやってみませんか?」と呼びかけることで、少しずつではありますが、メンバーにとって刺激となり、フットサル熱が再び上がってきたように思います。初めの内は緊張が見えましたが、回数を重ねていく毎にメンバーやスタッフの輪が広がるのを感じました。

そして、『ソーシャルフットボール 四国チャンピオンズリーグ』参戦を目指し、「大会に出たい」という想いを持ったメンバーを集め、『まんでガンバ!讃岐』というチームを立ち上げました。大会主催であるソーシャルフットボール協会の目的に、「フットボールの推進・振興を通して、精神疾患・精神障がいのある人が元気になること。人とつながり、社会とつながり、世界とつながること。」とあります。フットサル活動を通じ、四国4県の精神科病院の垣根を越えて、その目的を少しずつでも達成している実感を得ています。又、愛媛県西条市にて秋季大会を終えたばかりです。チームにとっては初めての県外遠征で、緊張もあったことと思います。しかし、一緒に遠征した多くのメンバーやスタッフの皆さんからの大きな応援にかなり緊張をほぐされたことでしょう。そして、試合結果としては惨敗でしたが実際かなり惜しい試合もあり、逆に選手たちの闘志を燃やすきっかけになったのではないのでしょうか。

「PSW としてフットサル活動に参加することに何の意味があるのか?」そう思われることも少なからずあると思います。香川県の精神障がい者フットサル活動は、他県には見られない大きな特徴として、複数の病院が合同で活動していることが挙げられます。その為、このチームは自分にとっての横のつながりが広がる事・他機関のことを知る機会となる事・たくさんの人と出会え、出会ったひとりひとりのいい所を知ることができた事を、私にもたらせてくれました。また、一個人としてチームのエンブレムやユニフォームをデザインしたり、広報担当としてチームにかかわったりしていることに誇りを感じます。今後もフットサル活動を通して、メンバーやスタッフと一緒にいろんな景色を観て、感動や思い出を増やしていきたいと思っています。





- 入 会**
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 鎌田 慎司 (香川医大) | 草薙 加奈 (永生病院) |
| 飛鷹 和樹 (高松市民病院) | 藤中 一貴 (おさか脳神経外科) |
| 帯包めぐみ (リハセンター) | 濱田 彩夏 (橋本病院) |
| 越智 杏菜 (西山脳外病院) | 丸岡 笑子 (太田病院) |
| 川田 裕一 (西山脳外病院) | 横山 育歩 (麻田総合病院) |
| 高木 茜 (松井病院) | 渡辺 佳子 (デイサービスタ風) |
| 塩田恵里子 (松井病院) | 横田 萌恵 (麻田総合病院) |
| 田村 佳弘 (介護老人保健施設ひまわり) | 田川 奈美 (橋本病院) |
| 大谷 知佳 (松井病院) | 向井 知里 (四国こどもとおとな医療センター) |
| 藤枝 昌代 (三豊総合病院) | 久保 春華 (麻田総合病院) |
| 幸崎 凌 (三豊総合病院) | |
| 紙本 晋 (キナシ大林病院) | |
| 池田 哲郎 (藤井外科 胃腸科 整形外科) | |
| 和木 浩城 (高松協同病院) | |

- 退 会**
- 谷川 麻衣
 - 坂口 佳子 (小豆島中央病院)
 - 矢野 知世 (大西病院)

- 異 動**
- 岡田 康紀 (高松平和)→岩本病院
 - 倉本 由伽 (訪看ケアライン)→訪看ケアライン西
 - 井上 美紀 (老健ハートフル国分寺)→池田内科医院 デイケア ステップ
 - 戸島 友里 (ふじた医院)→訪問看護ステーション ケアライン



■(一社)香川県作業療法士会ニュース No.69■

編集長：木村勇介 編集委員：松永智香・山崎悠加・山岡亜裕美・高橋真理・善相原健史・瀬知杏奈・安藤瑞基・
菅田未佳・真鍋奈菜・水口未紅・鎌田雄大・高橋優里